



高岡 **北**
ロータリークラブ
TAKAOKA-NORTH
ROTARY CLUB



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

例会日・毎週月曜日 12:30～13:30
例会場・ホテルニューオータニ高岡

創立・1980年5月19日
認証・1980年6月12日
国内創立順位・1489

会長 新原 俊夫
幹事 片岡 長司
会報委員長 荒木 信幸

第1844回 例会 3月28日(月)

◇点 鐘 新原会長

◇ソング “我等の生業”

◇ゲスト並びにビジターの紹介

ゲスト：ライフガード北陸 支社長
総合防犯設備士 高嶋 郁 様

◇会長挨拶並びに報告

皆さんこんにちは。今日は親睦委員会担当の例会で、総合防犯設備士の高嶋郁さんに防犯についての卓話をお願いしております。どうぞよろしくお願いいたします。

コロナですが、全国的には減少傾向にあります。北陸のほうはいまだ三桁の状態、多いです。県の方も二桁になればステージ1にするそうですが、いまだに高止まりの状態です。

当クラブも、4月11日に花見例会を実施したいと思っております。その後、通常の会食が出来る例会が開催できればと思っています。

◇米山記念奨学会より、八塚昌俊会員へカウンセラー委嘱状が届きました。

◇幹事報告

- 次回、4月4日(月)例会プログラムは、五十嵐豊会長エレクト担当の「PETS 報告」です。
- 回覧：①会報 NO.26
②4/11(月)観桜例会の出欠確認表

◇ニコニコBOX 報告

新原 会長：ライフガードの高嶋郁さん、今日の卓話よろしくお願いたします。島委員長もよろしく。
野尻信晴君：昨日、友達と京都の骨董市に行って来ました。15万かと思ったら150万でした。
黙って帰ってきました。

【今年度ニコBOX 累計額 318,736円】

◇出席報告 出席者 23名 メイクアップ済 0名

名誉会員	会員数	本日の出席率	3/7例会 修正出席率
1名	35名	79.31 %	78.57 %

※内、Zoom 出席者2名

◇本日のプログラム (担当：親睦活動委員会)

卓話「防犯のお話」

ライフガード北陸 支社長

総合防犯設備士 高嶋 郁 様

今日は、馴染みがあるようで無い防犯についてお話いたします。富山県では日本で初めて立正大学文学部社会学科教授小宮信夫先生の犯罪機会論を取り入れたガイドラインを作成しました。令和元年、子供の安全確保と地域防犯力の強化に関する有識者会議が設置されました。座長は小宮先生が務められ、私も有識者会議のメンバーとして富山県が安全で住みよい県になるよう意見を述べさせていただきました。

令和2年に富山県の新しい防犯上の指針が改定されました。今日はこの防犯上の指針を作るのに参考にした犯罪機会論という考え方と事業所の防犯対策についてお話しします。

富山県防犯設備協会をご存じですか？とても知名度が低くて、存在を知っている方は少ないです。防犯設備士の資格を持ったもので構成されている会です。事業者会員は12社、防犯設備を扱っておられる企業が入っています。個人会員22名です。

防犯設備士は防犯設備だけでなく犯罪情勢にも目を配って解決の手段である防犯設備やその運用などに関する新しい知識を絶えず入手して的確な対応ができることが期待されています。

活動としては、富山県安全なまちづくり推進本部への支援、防犯相談、防犯診断、防犯監査、防犯講演、防犯意識

の啓発、啓もう活動、イベントなどで、防犯機器の展示などもさせていただいています。

自己紹介ですが、ライフガード北陸の責任者をしております。防犯と防災はつながりがあり、2年前に防災士の資格も取りました。まだまだ防犯意識が低く、一人でも多くの方に自分の身を守る対策を知っていただきたいと思いこのような講演活動をしております。趣味はよさこいで、Rey 華繚乱というチームの代表をしております。島会員の周年事業で演舞させていただきました。YouTube もしております。ぜひ登録をお願いします。

富山県は犯罪被害が少ないゆえに非常に防犯意識が低く、いまだにカギをかけないお宅が多いのが現状です。昨年、住宅等対象の無施錠による被害は全国平均 53%のところ、なんと 83%です。先日、大阪の防犯設備士の方と話してありましたら、「83%はあり得ない数字」と言われました。カギはあるけどかけないのです。

このように平和な富山県ですが、2018 年県内において子供の安全を脅かす凶悪な事件が相次いで発生しました。記憶に新しい奥田交番襲撃事件、小学校の近くで交番が襲撃され、拳銃が奪われ、警備員の方も警察官の方も亡くなるという事件、その模倣犯も続いております。これも亡くなった警察官が私の上司の同級生であったり、犯人である 21 歳の自衛官は、姪の同級生であったり、私にとっても身近な事件でした。

日本一安全安心な県の実現に向け、最近発生している事件・事故の教訓や、少子高齢化に伴う人口減少、北陸新幹線による交流人口の拡大など、社会情勢の変化に対応していく必要があります。富山県では有識者会議を設置しました。

子供の安全確保や地域防犯力の強化について有識者の方々から幅広く意見をいただき、政策に反映していきたいとの考えから設置されました。

有識者会議ですが、座長の小宮信夫教授は、犯罪学の国内第一人者です。この小宮教授が提唱されている犯罪機会論という考え方は、富山県が広域自治体、都道府県で初めて本格的に取り入れました。

犯罪機会論についてお話しします。犯罪を犯す人ではなく、犯罪が起こる場所に注目する考え方です。今までは人に注目した犯罪原因論でした。なぜあの人か犯罪を犯したのかということを考えてみました。犯罪者は犯罪の原因を明らかにしようとしていました。犯罪発生後の犯罪者の改善更生には役立ちますが、予防には役立っておりません。犯罪機会論は、なぜここで犯罪が起こったのかということを考えます。犯罪現場に注目します。犯罪の機会や雰囲気を生むのは場所・状況・環境であるという考え方です。これは、犯罪発生前の犯罪発生予防ができます。

犯罪抑止の三要素があります。犯罪機会論を日常生活で気軽に活用するために小宮教授が考案されました。領域性・監視性・抵抗性に分類してそれぞれハード面とソフト面で構成されています。領域性とは、物理的・心理的なバリアで犯罪者の接近を防ぐためにどうしたらよいかということです。犯罪者の力が及ばない場所をはっきりさせることです。ハード面としては、ゲートを設けたり、フェンス

を張ったり、関係のある人だけが通れる道をカラー舗装であったり、ナビラインであったり、ゾーニングなどがあります。ソフト面であれば、縄張り意識や見守り活動や、パトロール、防犯の看板を立てることも有効です。防犯パトロールもそうです。

監視性ですが、もし、領域性を破り勢力圏内に入り込まれても、目撃される可能性が高いと、簡単には犯行を実行できません。犯罪者の行動を見張って犯行対象を見守るということで、ハード面としては植栽管理、防犯ミラー、センサーライト、防犯カメラなどがこれにあたります。ソフト面では、犬と地域の交流、子供の登下校に合わせて散歩していただいたり、清掃活動、挨拶運動など、こういったことで、地域の見守りの目があるので、なかなか犯罪を実行できにくいということになります。

抵抗性ですが、犯行に及んでも抵抗性が高いと犯罪目的を達成できません。犯罪者から加わる力を押し返すものになります。ハード面は、防犯対策として、窓には防犯ガラスや防犯フィルム、カギを二重にする、外に面格子を付ける、ひたたくり防止ネットなどです。ソフト面としては、鍵かけ運動、護身術、指差し確認、人の意識が非常に大切になります。富山県は鍵かけが出来ていないので、この辺の意識が低いなと感じております。

犯罪者は領域性と監視性の低い場所を選んで抵抗性の低い人を選んで犯行に及びます。領域性が高いとターゲットに簡単に接近できません。監視性が高いと犯行の発覚、通報を恐れて犯行を未然に諦めさせることが出来ます。

犯罪機会論の三本柱として、防犯環境設計、地域安全マップ、ホットスポットパトロールがあります。

防犯環境設計は今までご説明させていただいた領域性の環境を整えることとなります。地域安全マップはよく小学校で、グループになり作成する地図ですが、子供だけの活動にとどまっております。これを公民館単位で行っているところもあります。それにより、どこが危険か自分で判断できることとなります。ぜひ大人も一緒にやっていただきたいです。

防犯パトロールですが、今まではランダムパトロールといって不審者を探す感じでパトロールしていましたが、今は、ホットスポットパトロールに切り替えるよう要請がありました。これは、犯罪機会論を防犯パトロールに応用した防犯効果が実証された唯一のパトロール方法になります。ホットスポットとは、犯罪が起こりやすい危険な場所です。危険な場所とは、入りやすく見えにくい場所になります。少ない人数でも高齢者でも簡単に無理なくできる方法なのですが、危険な場所は犯人が待ち伏せしたり、車をとめて作戦を練ったり、誰がいても不審に思われません。そこに防犯パトロールの方が、5~10分とどまって立ち話をするなどして、通る人に挨拶する。という方法です。とどまることで、犯罪者に姿を見せることができ、そして「犯行がばれている」という心理にします。

富山県の有識者会議で意見させていただいたことは、防犯上の指針が非常に古く見直しが必要であることを言わせていただきました。